

令和5年度 自己評価表（年度末）

学校法人中村学園
静岡福祉医療専門学校

※文部科学省「専修学校における学校評価について」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1332632.htm

専修学校における学校評価ガイドライン

1. 学校の教育目標

<建学の精神>

パイオニア（開拓者）の精神を基調とし、益々高度化する現代社会の変化に対応、更に試行錯誤の中からクリエイティブな精神を培い、独立自尊以って広く国際社会に貢献できる人格の形成を重点とする。

<校訓>

技術は力なり 我は我が道を行く How to 人間ではなく Why 人間の養成

<静岡福祉医療専門学校 教育方針>

「21 世紀の医療福祉—高齢社会に対応できる福祉スペシャリスト（保育士・幼稚園教諭、社会福祉士、介護福祉士、社会福祉主事、訪問介護員、福祉レクリエーション・ワーカー、視能訓練士）の育成」

○総合福祉学科の学習指導方針

「急速な少子・高齢化が進展するなか、複雑化・多様化・高度化する福祉・介護ニーズに対応できる中核的人材として、1年以上の実務経験を経て、高齢者、障害者、児童、生活困窮者など、福祉界全ての分野において活躍できる総合的な相談援助の力量を持つ福祉介護職を育成することを目的とする。」

○介護福祉学科の学習指導方針

「共感性豊かで、専門的知識と技術に精通した介護福祉士の養成」
確かな理論的基盤に立脚したコミュニケーション技術・基本的人権・専門知識と技術の習得を行い、施設・在宅で生活している利用者の安全で快適な生活を援助でき、専門職としての高い倫理観を持った介護福祉士の養成を行う。

○子ども心理学科の学習指導方針

「子どもたちの“こころ”と“からだ”の健やかな成長を見守り、あたたかいふれあいの『心』を大切にする保育士・幼稚園教諭を育成」

○視能訓練士学科の学習指導方針

「生活の質・視覚の質に貢献し、自ら考え行動できる視能訓練士の養成」

視能矯正の十分な知識と技能を有し、実践力はもとより、患者を理解する深い洞察力と対人援助職としての「患者をおもいやる気持ち」、多職種と連携できる高いコミュニケーション力を有する視能訓練士を養成する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

【介護福祉学科】

- ①目 標：時代と地域のニーズに応じた総合的力量を備えた介護専門職の育成に向け、教育内容を改正する。

プラン：挨拶、掃除等日常生活においての基礎が自ら行える。

自主的に介護技術をトレーニングする。

学生一人一人のバックボーンを理解し、個別対応をする。

学生一人一人の能力を向上させる。

介護領域のSDGsを学ぶ。

- ②目 標：2025年問題を意識して、地域のニーズに応じた介護人材を増やせるような取り組みをする。

プラン：インクルージョンの考え方を学ぶ。

外国人も日本人もお互いに個性を認め合うような授業やクラス運営を目指す。

自分たちに何ができるのか考え行動できる人材を育成する。

【総合福祉学科】

- ①目 標：目指す福祉・介護専門職像を常に意識し、なりたい自分の具現化を図るための手段を考える。

プラン：自分が目指す将来像を考え、言語化する機会をもつ

将来像に向け、自分に必要な力、身につけたい力とその手段を明確化させる

実習、学びのたびに自分の強みに気づき、自己肯定感を高めていく

- ②目 標：時代と地域のニーズに応じた総合的力量を備えた福祉・介護専門職の育成

プラン：新カリキュラムにおける教育内容を効果的に学習できるようにする

実践能力を高められる実習・演習内容を行う

実習指導者や科目担当者教員と密に連絡を取り、必要に応じた個別指導を十分に行う

- ③目 標：地域貢献活動を活性化させていく。

プラン：学生が主体的に取り組めるようにする。

実習以外のゼミナール活動、ボランティア活動等のフィールドスタディの機会を増やし、プランニング力やマネジメント力も高めていく

他学年との合同授業を実施し、連携やチームビルディングについて学ぶ

【子ども心理学科】

- ①目 標：人格の形成。挨拶を基調とした全人教育の浸透。
プラン：常日頃より挨拶を心がける。教員自身も自らがお手本となる。
- ②目 標：理想の保育者像を自らの学びや経験より考える。
プラン：「どのような保育者になりたいのか」アイデンティティを学生自らが持てるよう、目標と振り返りの機会を設け、通学の目的意識を失わないようにする。
- ③目 標：学びの機会を学外に持つ。
プラン：学生自身が活動の場を考え参加する。職場体験・ボランティア等フィールドスタディから得られる生きた体験から、社会が求めるニーズを感じ、自らを成長させていく。

【視能訓練士学科】

- ①目 標：学生一人ひとりの医療人としての自覚を促し、現場で求められるマナー（挨拶、身なりなど）の習得。
プラン：毎日の挨拶励行を教職員が見本となるように率先して行う。
学内実習や実習前教育において、医療人にふさわしい身だしなみ、振舞ができるように具体的な指導を行う。
- ②目 標：現場に則した知識・技術を身につけ、広い視野を持った専門職を育成する教育カリキュラムを構築する。
プラン：産学連携教育として、医療機器メーカーなどの特別講演を実施し、学生の問題発見力と解決力を養うとともに、専門性を高める。
臨地実習、幼稚園での視力測定体験を通して、実際の現場での対応力を身につける。
海外の視能訓練士によるリモート特別講演を実施することで広い視野を持てるようにする。
- ③目 標：地域での学びを通して、洞察力とコミュニケーション力を培う。
プラン：視覚障害者支援センター等でのボランティアの機会を設ける。
視能訓練士の職業啓蒙活動を学生自らが地域で行える機会を設ける。

3. 評価項目の達成及び取組状況

【介護福祉学科】

- ・時代と地域のニーズに応じた総合的力量を備えた介護専門職の育成に向け、挨拶、掃除等日常生活においての基礎が自ら行えるような指導を継続する。
- ・学生一人一人のバックボーンを理解し、個別対応をするなど、個人の能力を向上させるような細かい指導をしている。
- ・外国人留学生と日本人学生が学びあい高めあい、学生が主体的に取り組めるよう、学内外のコラボレーションのあり方を整備していく。
- ・2025年問題を意識化させ、授業等で福祉の基本理念を学び、自らがインクルージョンの考えを取り入れた生活ができるよう促している。

- ・1年生の実習報告会を2年生も聞いて、アドバイスでき、双方によかった。
- ・「介護領域のSDGsとは」を調べ学習した。
- ・看護学生とのコラボ授業を通して、介護福祉士のアイデンティティとは何かを自覚することができた。

【総合福祉学科】

- ①目標：自分の目指す福祉・介護専門職像を学年が上がるにつれ、より明確化できるよう考える機会を多く作った。ゼミナールの授業等の中で、それを言語化し、他者に表現する機会を作ることで意識するような環境作りを行った。しかしながら、介護福祉士養成課程の中で1年生にイメージさせるのは、個の興味によって差異がみられた。ソーシャルワーカーがどのような役割を持った専門職なのか、具体的な理解ができるよう、実習先以外での現場見学の機会をつくる必要性を感じた。
- ②目標：新カリキュラムの中の教育内容や現代社会における社会福祉士の役割について学ぶ。講義－演習－実習とつなげ合わせて力量を高めていけるよう、演習以外の科目内でもグループワークや実践の機会を持った。3年生が実習で体験した認知症利用者の役となり1年生が認知症利用者へのコミュニケーション技術を学ぶ合同授業では、3年生は自分の実習の振り返りができ、1年生は初めての実習前の予行練習となり双方に良い効果をもたらした。ソーシャルワーク実習においては、今年度より同じ機関で2度（夏・冬）に分けて実施することになりましたが、より効果的に実習が行えるよう実習指導者と密に連携をとることができた。
- ③目標：N-Cap生を中心に活発にフィールドスタディに取り組んでいる。福祉イベントの企画・運営、小学生への福祉教育、様々なボランティア活動に参加する機会が増えてきた。後期には、活動の企画・立案を学生自らがを行い、N-Cap生だけでなく他の学生も参加して活動が行えた。しかし、地域を巻き込んだ活動までには到達できなかった。

【子ども心理学科】

- ①目標：学生の時から挨拶を意識化することは、個々の性格が影響するため難しい学生もいる。引き続き他者とコミュニケーションを図るための第一歩であることを意識化できるようにしたい。
- ②目標：どのような保育者になりたいのか、学生は、その時々を経験や学びで変化する。その時々で自らが感じた保育に対する思いを言語化し意識できるよう、引き続き各学年で理想の保育者像を考える機会を持つ。
- ③目標：1年生は興味を持ったボランティア活動に積極的に参加できた。
2年生は、前期に各自が一つ保育に関するテーマを掲げ調査を行った。後期では、実際に現場に赴き、その実態を見させていただく機会を通じ、保育観を深めることができた。
3年生は、5専攻ゼミナールおよび個別ゼミナールを通じた探求を行い全体の前でプレゼンテーションを行うことができた。

【視能訓練士学科】

①学内実習や臨地実習前教育で身だしなみ等の指導は概ね出来た。ただし、「元気な挨拶」「笑顔で挨拶」という点では、引き続きの指導が必要である。引き続き、日常生活の中で医療人・社会人としてのマナー教育を行っていく。

②幼稚園での視力測定では、子どもへの対応・適切な検査方法を体験することで臨地実習へのモチベーションと不安解消に繋がった。産学連携教育では、4社による特別授業を実施した。業界の動向を把握し、最新情報に触れることができた。

③視覚障害者支援センターや視覚障害者スポーツのボランティアに参加することで、コミュニケーション力の向上とともに医療人としての自覚を養う機会となっている。ただし、年間を通じての参加継続が難しく、今後はスケジュールの再調整が課題である。また、3月に視能訓練士の啓蒙活動の一環として外部での検査体験等を計画していたが、使用施設の工事等により中止となった。今後、実施に向けて再度計画していく。

評価方法は、以下の通りである。

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
・学校における職業教育の特色は何か	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

<p>① 課題</p> <p>介護福祉学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学時だけでなく、「建学の精神」と「校訓」の具現化に向けた日々の指導を行う。 <p>総合福祉学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニケーション力」「人間力」を高める為に、学内だけでなく学外の方との接点を多く持つことで各々が向上できる機会を作る。 ・特に「創造する力」の育成に力を入れていきたい。 <p>子ども心理学科</p>

<p>・「挨拶を基調とした全人教育」を目指している。挨拶が自然にできるような学生を育てていきたい。</p>
<p>② 今後の改善方策</p> <p>介護福祉学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に SHR やゼミナール等において、日々の時事問題と重ねながら「建学の精神」、「校訓」、「教育方針」の具現化に向けた課題を確認する。 ・後援会 総会、学級懇談会や不登校気味な学生においては、「建学の精神」、「校訓」、「教育方針」の意味を周知し、学校へ入学した意味を再確認し、学期などの節目も必要に応じて保護者への連絡を行う。 <p>総合福祉学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉学科と合同で看護学校との合同授業を実施している。このような他学校との合同授業を増やしていき、他者との学びの機会を作っていきたい。 ・まずは自ら情報を得ようとする力、そして得た情報の取捨選択、真似するのではなく参考にして新たなものを創造する訓練等グループワークを通じて行っていきたい。 <p>子ども心理学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生に話をしたときは出来るようになるが、しばらくすると忘れてしまうものもある。引き続き声をかけていきたい。
<p>③ 特記事項</p>

(2) 学校運営

評価項目	評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

(3) 教育活動

評価項目	評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	3
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4
<p>① 課題</p> <p>介護福祉学科：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日課の変更の目的や意義を学生と教員がよく理解し、円滑な移行を行う。 ・外国人留学生の実習に向けて、今後も引き続き受け入れ態勢を強化してもらう。 <p>総合福祉学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度より新カリキュラムに基づいたソーシャルワーク実習に変更となり、実習要綱や評価表についても以前のものから変更を行った。実習指導者には実習内容や評価方法について説明は行っているが、実習先によってプログラム内容や評価方法に差が見られた。 ・各教員が専門分野に関する知識・技術の向上を図るのはもちろんだが、プラスワンの知識を積極的に学ぶ機会を作りたい。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・社会人講座に3年生の学生をアシスタントとして参加させた。他者に教えることで学びの振り返りとなり、また社会人に対しても学ぶことの重要性を伝えることができており、来年度も継続して実施したい。 <p>子ども心理学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準が教務主導により、より明確になった。シラバスに評価基準が反映されていない矛盾が生じた。 <p>視能訓練士学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3学年すべてが埋まると必要な専任教員数は6名となる。
<p>① 今後の改善方策</p> <p>介護福祉学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科内で適切な授業評価を実施したい。また教員への要望に向き合っていく。 <p>総合福祉学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習指導者と教員との共通認識を深めるための勉強会の実施を検討したい。 ・ICTの活用や介護ロボットの活用が現場でどのようになされているのかを含め、今の介護・福祉業界を体感するために教員の現場研修を実施していきたい。 <p>子ども心理学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度より全科目でシラバスと評価の整合性を確認していきたい。 <p>視能訓練士学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員経験がない新人職員への指導を充実させていく。実習先等に声掛けを行うことで教育現場への興味を持って頂く。
<p>③ 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

(4) 学修成果

評価項目	評価
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	4
・退学率の低減が図られているか	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4
<p>① 課題</p> <p>介護福祉学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学後、前期の終了までに退学者が出てしまう ・就職率は100%であるが、介護福祉士国家試験の合格率が100%に至らない。 ・卒業後のキャリアアップに向けての支援に偏りがある。 	

総合福祉学科

- ・介護実習終了後に専門職に対する不安や自信のなさから進路変更を考える学生がみられた。実習は実践の学びの場であることを理解させる、気持ちを前向きにするための個別指導を担当及び学科で行う必要がある。
- ・卒業生が現在どのような活躍をしているのかデータ化しておく必要がある。

子ども心理学科

- ・退学については、前期終了時に毎年出ている。1年は学業不振、2年は実習に参加しての進路変更が傾向として見られる。3年の退学はない。

視能訓練士学科

- ・昨年度に比べ、基礎学力の低下がみられる。学習面を原因とする退学を予防する必要がある。

② 今後の改善方策

介護福祉学科

- ・就職希望を早期に固め、希望先の求人状況に合わせた活動と準備ができるようにする。
- ・国家試験対策の各種ツールを駆使し、個々の学生に合った試験対策ができるようにする。
- ・卒業後の進路変更やキャリアアップの希望が掴めるよう、SNSや同窓会ホームページを活用する。

総合福祉学科

- ・資格取得の為だけに3年制を選択すると、学習や実習に対するモチベーションが上がりにくい。細かな場面においても成功体験を多く積み、自分の将来像が明確化するよう多種多様な卒業生や業界人の話が聞ける機会を、リモートなどでも増やしていき、学生の意欲向上につながる、面白さを感じる学びの場を提供していく必要がある。
- ・基礎学力固めのために、来年度より4限の時間を利用し、学力に不安がある、実習準備に時間がかかる、資格取得に課題がある学生を対象とした補習コースを実施していきたい。

子ども心理学科

- ・今年度の学科内退学者は、5%弱となる予定。学生が本学の機能を十分に生かし、卒業してくれるよう、来年度も教育体制(個別指導・相談体制)の充実を図りたい。

視能訓練士学科

- ・専門教科だけではなく、学力面で不安がある学生には算数の補習を引き続き行う。

③ 特記事項

- ・特になし

(5) 学生支援

評価項目	評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
・学生の生活環境への支援は行われているか	4
・保護者と適切に連携しているか	4
・卒業生への支援体制はあるか	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

<p>① 課題</p> <p>介護福祉学科・総合福祉学科：</p> <ul style="list-style-type: none">・関係機関・団体の人材養成に対するニーズが十分に掘り起こせていない。・中学・高校とのキャリア教育の連携が滞っている。・学生への経済的支援を一層進めなくてはならない。・学生に対する個別支援は、問題対応へのウエイトが高く、主体性・可能性を伸ばす支援に傾注しきれていない。・経済的支援で前期が学生に負担が大きい。・精神的な問題、経済的な問題を抱えている学生が増えてきている。学生が相談しやすい環境を整え、フォロー体制を強化していく。
<p>② 今後の改善方策</p> <p>介護福祉学科</p> <ul style="list-style-type: none">・実習先や就職先を中心にし、人材養成に対するニーズを引き出し、教育内容に反映する。・個々の中学・高校に対するアプローチに留まらず、ボランティア協会などと連携し、出前講座などを企画していく。・引き続き、初任者研修や実務者研修を複数講座行っていく。・引き続き、通信制高校と連携した出前講座を行っていく。・CAN スカラシップを十分に活用し、学生の主体的な意欲を引き出した活動ができるよう支援していく。・実習先や就職先を中心にし、人材養成に対するニーズを引き出し、本学独自の講座を企画していく。

③ 特記事項 ・特になし

(6) 教育環境

評価項目	評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
・防災に対する体制は整備されているか	4

① 課題 共通 ・学校行事である海外研修等については実施予定であったが、物価や燃料費の高騰、円安の影響等考慮し、今年度も国内で実施した。 視能訓練士学科 ・カリキュラム改訂に伴い必要機器が追加となる。
② 今後の改善方策 共通 ・電子福祉合同研修であったが、参加した学生自身は、それぞれの職業的アイデンティティを軸に学びがあり、有意義な時間となった。 視能訓練士学科 ・施設へ静岡県視能訓練士の会を通して、不要機器（カリキュラム改訂で必要となる）を譲って頂けないか声掛けを行なった。
③ 特記事項 ・特になし

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
・学納金は妥当なものとなっているか	4

<p>① 課題</p> <p>介護福祉学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種ツールを駆使して、学科の特長のアピールを行う。 ・本学が輩出する人材育成に関して、高校生などが持つニーズを開拓する。 ・企画広報スタッフと、学科の魅力、特長ある授業の内容を共有する。 ・介護職希望の学生の取り込みを開拓しなくてはならない。(海外等) <p>総合福祉学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス時には在校生がいることで、参加者気が軽に話せる環境づくりをしている。オープンキャンパスに参加してくれれば、チラシや動画等で学科の特徴を伝えられているが、オープンキャンパスに行ってみようと思わせる手段をもっと工夫しなければならない。 <p>子ども心理学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動について、学科として SNS を活用した情報の拡散を行った。しかし、目標数には届いていない。 <p>視能訓練士学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科のオープンキャンパス参加者は増加しているものの、定員充足には至っていない。視能訓練士の知名度が低いことも一つの要因となっている。
<p>② 今後の改善方策</p> <p>介護福祉学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生にも本学の情報が適切に伝わるよう、外国人卒業生から口コミで学科の特長と卒業後の成果を PR してもらうようにする。 ・外国人留学生は口コミで広がるのが大きいため、卒業生から学科の特徴と卒業後の成果を PR してもらうようにする。 ・海外からダイレクトに入学するシステム作りをする。 <p>総合福祉学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在校生に気軽に質問できるツールを電子情報カレッジの学生と作成した。来年度以降在校生が上手く運営できるようにしていきたい。 ・学生主体の SNS の更新が実習等をはさむと滞ってしまう。定期的に発信することができるよう、来年度は SNS 発信日を決めて学科として取り組んでいきたい。 ・高校への出前出張の講座を増やしていきたい。

<p>子ども心理学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS の効果は出ていると感じている。これからも、本学を知り、ここで学びたいと実感していただけるような内容をつくり、発信していきたい。 <p>視能訓練士学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視能訓練士の啓蒙活動に力を入れているが、充分ではない。オープンキャンパスでは学生が生き活きと教える姿を見せることで学園の学びをイメージさせている。
<p>③ 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし

(8) 財務

評 価 項 目	評価
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	4
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	4

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	評価
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
・ 自己評価結果を公開しているか	4

<p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報保護法の理解と周知徹底を図る。
<p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法令遵守に加え、職業倫理の観点から、個人情報保護の重要性を教員、そして学生に日々、周知徹底していく。 ・ SNS などによる個人情報漏洩の危険性とその防止方法を具体的に周知する。
<p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

<p>① 課題</p> <p>総合福祉学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生・教員で小中学生に対する福祉教育を行う機会を増やし、福祉のしごとに対する種まきを行っていく必要がある。 ・地域の方に対する福祉の相談窓口、アクティブシニア向けの講座等の開設ができないかと模索している。 <p>子ども心理学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付帯施設として「小規模保育園」を運営している。所在する町内会長様、民生委員様とも情報交換しながら、すみやすい地域づくりを目指している。ただし、教員や学生と地域のつながりができていない。
<p>② 今後の改善方策</p> <p>総合福祉学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座や地域での相談事等のニーズについて、地域包括支援センターの方とも検討を進めていきたい。 ・介護入門研修を実施し、ニーズがまだまだあると感じた。技能実習生向けや就労支援をプラスした講座も検討していきたい。 <p>子ども心理学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に根付いた専門学校を目指し、専門学校の立地を中心としたボランティア活動等の掘り起こしと学生の参加(地域と学生とのつながり)を構築したい。
<p>③ 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

(11) 国際交流

評価項目	評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4

① 課題 ・留学生を受け入れているが、学習支援、生活指導の課題の整理は途上である。
② 今後の改善方策 ・留学生支援の体制、特に経済的支援の体制を整備し、留学生が学び易く、成果が出せるような環境整備を行っていく。
③ 特記事項 ・特になし

以 上